

自動運転やMaaS等最新技術の活用による、浪江町・南相馬市の復興、住民帰還の加速に資する移動サービスの構築（福島県 浪江町・南相馬市）

【浪江町、南相馬市、福島イノベーションコースト構想推進機構、長大、順風路、日産、DeNA、4RIジャー、ゼンリン、東北大学、日本郵便、会津ホム】

◆地域の課題

- 東日本大震災の原発被災により、町内の買い物や医療等の生活環境は壊滅的であり、交通機関の運転手も不足する状況下、帰還住民やビジネス・観光客の移動手段確保、新規住民人口拡大が課題

- ☑ 複数移動手段活用時の利便性
 - ☑ ラストマイルの移動手段不足
 - ☐ 公共交通・道路の混雑
 - ☑ 高齢者等の移動弱者の増加
- METI「新しいモビリティサービスの活性化に向けて」より引用

◆将来構想の概要

- デマンド配車型自動運転タクシー等の運行：無人自動運転車両の乗り合い交通により、町内移動や、隣接地域と協力した帰還住民への移動サービスを実現
- 住民等の移動手段確保と並行し、郵便物等のロボット配送等の生活利便性向上を図るとともに、エネルギーネットワーク基盤（VG I 車両と電力網の統合）により、効率的なエネルギー管理を実施

◆実証実験の概要

- 一元的な予約決済プラットフォームの構築実証：将来的なMaaSの実現に向け、社会受容性を把握し、移動予約サービスを試験導入
- 自動走行の実証：浪江町の一部区間において、自動走行の実証を実施
- 採算性の確保に向けた実証：デマンドタクシーの過去データと実施予定のアンケート結果をもとに、最適な自動運転ルートをシミュレーション
- 配送ロボットの実証：日本郵便が公道での配送ロボット実証を実施
- カーシェア・相乗り等の実証：電動車を活用したカーシェアリング実証

- ☑ カーシェア
- ☑ デマンド交通
- ☐ マルチモーダルサービス
- ☑ 自動走行車の活用
- ☐ 貨客混載
- ☑ ラストマイル配送無人化
- ☐ 移動サービスと周辺サービスの連携

METI「IoTやAIが可能とする新しいモビリティサービスに関する研究会」中間整理」より引用

◆対象地域

- 実証実験は浪江町、南相馬市共同で実施

- 2028年度までに自動運転タクシー・自動運転代行・配送ロボットの営業開始、2035年までに自立的な運営開始を予定

《自動運転代行ルート（赤線）、貨客混載ルート（青線）、自動運転タクシー区域（黄線）》



◆サービスモデル

- 帰還住民や観光・ビジネス客に向けた一元的な予約決済プラットフォームの構築により、利便性を向上するとともに、移動以外の地域施設からの利用手数料等を見込む

